

令和3年度第2回寒川町総合計画審議会 ご意見及び意見に対する町の考え方の回答について

議題1 寒川町総合計画2040第1次実施計画の修正について

【基本目標1について】

ご意見	町回答
特になし	

【基本目標2について】

ご意見	町回答
211「生涯を通じた健康づくりの充実」について 胃がん健診受診率については、分母と分子を明らかにしたほうがいいと思いますがいかがでしょうか。市町村国保での受診が分子、分母は住民数あるいは被保険者でしょうか。共済や健保、協会けんぽの受診率も本来なら必要でしょうが、おそらくデータ不足かと思います。注釈が必要かもしれません。	胃がん検診受診率について 分子が、その年度中に町の個別検診または集団検診を受診した、胃X線と内視鏡受診者数の合計です。分母が、その年度4月1日現在の住民登録がある、40歳以上の人口です。保健事業冊子の数字から算出しています。 上記の分子と分母の根拠がわかるよう追記いたします。
211「生涯を通じた健康づくりの充実」について 骨粗しょう症者現象のために関係団体数をR元「0団体」であったものが、R3「2団体」、R4「5団体」に増やし、参加者も2.5倍の150人にするととなっているが、そのための方策はすでに実施していると理解して良いのですか。	関係団体につきましては、骨粗しょう症に関するものだけでなく、各種健康づくり事業の展開において連携した関係団体(機関)数のことです。また、すでに今年度から関係団体の模索と連携を開始しております。 骨粗しょう症予防事業につきましては、R4年度から自分自身が骨密度の状態に気づくための機会を増やしていく予定です。
211「生涯を通じた健康づくりの充実」について 人と地域をつなげる機会を得る為、及び増やすための町民の認知方法の検討。 医療機関や福祉機関との連携を強化することが目標指数達成につながるのではないかと。生活習慣病予防を唱え、イベント等の企画を実施できるバックグラウンドはあります。	認知方法としては、広報、ホームページ、掲示板、健康だよりなどでお知らせしております。令和3年度からはLINEの利用を開始し、若い世代にも広く知っていただく機会を作り、周知しております。 健(検)診のスムーズな実施、各種イベント等への協力や参加などで、医療機関や福祉機関等の関係団体とはこれまでも連携し、健康づくりの充実を図ってまいりました。コロナを体験し「つながり」の大切さをさらに実感いたしました。医療機関や福祉機関等に限らず、新たな団体とも協力し、より一層連携を強化したいと考えています。
212「高齢者生きがいづくり等支援事業」について シルバー人材センターの活動実人数については、社会全般に定年が延長されて、65才～70才まで企業人として勤務していることから人材(人員)の確保が厳しくなっている。また財政の逼迫で行政からの発注(量・額とも)も減少していると聞いている。 行政として「シルバー人材センター」を高齢化対策、健康寿命策として捉えるのか。または事業者として捉えるのか。 シルバー人材センターやシニアクラブ如何に支援することが行政の役割かを明確にしていく必要があるのではないかと。	212「高齢者生きがいづくり等支援事業」については、基本目標「生涯にわたって自分らしく暮らせるまちづくり」、政策「健康寿命の延伸」の下に位置付けています。 そのため、主に自分らしく暮らせるための健康寿命策として捉えております。 行政としては、高齢者の方々が社会活動や生きがいづくりなどができるよう、町民の方々と各種団体の方々とを支援することで、その環境を整えていく必要があると考えております。
212「高齢者生きがいづくり等支援事業」について 新しく追加する指標「シニアクラブ会員の実人数」は元からある指標「シニアクラブ会員数」に対して少なく出るのが傾向と思うが、基準年(R元)では会員数:690に対して実人数:708と傾向に反している。 間違っているようにも思いますが、この理由を教えてください。	シニアクラブ会員の実人数については、時点を4月当初で設定すべきでしたが、年度末(3月末)で設定していました。 そのため、4月当初時点で修正いたします。(1年度ずらす) 基準年 708人→619人 R3 619人→647人 R4 647人→661人 R5 661人→675人 R6 675人→689人


【基本目標3について】

ご意見	町回答
<p>312「自然環境保全の推進」について 追加のデータや目標は、個別計画での目標を転記したと思いますが、根拠として示した方がいいかもしれません。</p>	<p>追加したデータや目標は、個別計画からの転記ではございませんので、お示しすることができません。</p>
<p>312「自然環境保全の推進」について 地球温暖化等の気候変動における危機的状況を、地域レベルでどう認知してもらうかの検討を行いたい。 新型コロナウイルスの緊急事態宣言同様に、気候非常事態宣言は重篤な課題であると考えます。 現状上記の認知活動として美化キャンペーンやクリーンキャンペーン以外で行っている政策はあるのか。また、どのように町民に参加を促しているのか知りたい。</p>	<p>地球温暖化の進行に伴う気候変動をもたらす熱中症などの健康被害や、大雨などの自然災害の影響について、より広くかつ分かりやすく認知してもらうために研修会などを開催するとともに、町域の脱炭素化を進めるためにゼロカーボンに資する設備を導入する家庭へ補助金を交付してまいります。 併せて、自然環境保全を推進するための認知活動として、美化キャンペーン等の実施のほか、環境団体と連携した自然学習会などを開催してまいります。</p>
<p>321「住環境の向上」について 前提として空き家が増えている中で、特定空き家を出さないために取り組んでいく(施策の潜在的な対象は増えるけども取り組みによってゼロの維持を続ける)ことかと思えます。そのためには、前提のトレンドとして空き家数の推移を示した方がいいのではないのでしょうか。</p>	<p>空き家の実態調査は平成30年度に1度実施したのみですので、トレンドとして空き家数の推移はお示しできませんが、平成30年度の実態調査の結果を「町を取り巻く環境(課題等)」に追加いたします。</p>
<p>322「地域美化の推進」について 町民が地域課題に対して参加しやすい例として美化活動かと考えております。 多様な美化活動に参加している人数を指標に加えられたということで、清掃活動だけでなく啓蒙活動なども年齢問わず行える活動かと思えますので、多様な美化活動の具体例が町民に示せるとより参加しやすい環境作りができるかと思いました。 他自治体の事例で面白そうなものがありましたので参考までに。 「新しい生活様式」に適した環境美化活動を目指して。さいたま市とピリカと共同で、ごみ拾い活動を支援展開開始。 https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000015.000015952.html</p>	<p>ご提供いただいたさいたま市の事例を参考に、寒川町に最適な地域美化の推進方法を検討します。</p>

【基本目標4について】

ご意見	町回答
<p>特になし</p>	

【基本目標5について】

ご意見	町回答
<p>513「下水道の整備」について 【町民ニーズ】【課題等】【目指す姿】【具体的な取組】が示されています。寒川町では、「洪水ハザードマップ」だけでなく、「内水ハザードマップ」が作成・配布されており、住民が避難行動をとるのにあたり大変参考になります。ただ、各ハザードマップにある「想定される最大浸水深」の表記に以下のような違いがあります。</p>  <p>上記の「茅ヶ崎市洪水ハザードマップ」や「町・内水ハザードマップ」のように、「町・洪水ハザードマップ」においても赤字に記したように細分化していただくと暮らしに即した危険を知ることができるので、住民にとってはありがたいと思います。</p>	<p>河川の決壊などに伴い発生する洪水氾濫による「洪水ハザードマップ」と短時間の集中豪雨などで下水道の排水能力を超えることに伴い発生する内水氾濫による「内水ハザードマップ」に区分されています。寒川町では、国が統一的に定めた「水害及び内水ハザードマップ作成の手引き」に合わせて、それぞれの想定される浸水深によって値の区分を行っております。このため、洪水ハザードマップについては、国の基準どおり、一般的な家屋の2階が水没する5m、2階床下に相当する3m、1階床高に相当する0.5mに加え、これを上回る浸水深・津波基準水位を表現するため10m、20mを用いることとしております。(茅ヶ崎市については、5mを超える浸水想定区域がないため、0.5mから5mを細分化して表示しているようです)今後、地域ごとの水害特性の分析などを踏まえ、町民の皆様へよりわかりやすく、浸水情報を共有して防災意識の向上が測れるよう検討してまいります。</p>
<p>513「下水道の整備」について 【取組】に関してですが、雨水幹線の整備だけにとどまらず、災害を「いなく」発想を持ち、昨今の気候変動に対応して被害を最小限にする防災計画を練っていく必要性を感じます。例えば自然の性質を生かして被害を最小限に抑えてきた日本の伝統的な治水技術を高じるなど、今後は課題横断的に様々な政策の中に気候変動と防災の組み込みをしていくのはいかがでしょうか。町だけでなく、県、国、そして地域住民との連携も不可欠だと思います。せつかるあるハザードマップと照らし合わせて、災害リスクを踏まえたまちづくりや持続可能な地域のあり方を検討していただければと思います。</p>	<p>ご指摘のとおり、本施策は、411「防災対策の充実」をはじめ、他の施策と連動する必要があります。最悪の事態を想定し、ハザードマップを活用した防災、減災の取組を進めてまいります。国や県はもちろんのこと、来年度(令和4年度)からは消防業務を茅ヶ崎市へ事務委託するため、茅ヶ崎市をはじめ、近隣自治体との連携は不可欠であると考えております。また、阪神淡路大震災や東日本大震災の際、公助だけでは支援が行き届かなかったという経験を踏まえ、地域住民と連携した自助・公助の推進を進めてまいります。</p>
<p>513「下水道の整備」について 床上と床下を分けたのはこのほうが良いと思います。</p>	<p>今後も必要な修正をしながら進行管理してまいります。</p>

【基本目標6について】

ご意見	町回答
<p>612「多様な主体によるまちづくりの推進」について 追加した目標(LGBTQへの配慮)に資する事業が追加されていない(目標は増えたのにその達成手段である事業が追加されていない)ようにみえてしまうのには工夫が必要かもしれません。</p>	<p>男女共同参画推進事業の取組概要にLGBTQに対する記述を追加します。</p>
<p>612「多様な主体によるまちづくりの推進」について 施策目標に対して具体的に取り組んでいる運動や活動はあるのかわかりたい。</p>	<p>町民アンケートでは、特に社会全体で男女平等になっていない方が多いことから、講演会などを通じて男女共同参画社会への理解が進むように取り組んでおります。また、LGBTQについては、パートナーシップ宣誓制度を令和4年2月より開始しております。パートナーシップ宣誓制度とは、同性・異性を問わず、互いを人生のパートナーであることを宣誓し、町がその事実を公的に証する制度のことで、法律上の効力(婚姻や相続関係の形成、相続、税金の控除等)が生じるものではありませんが、寒川町がお二人の関係を尊重し、寄り添っていくことができると考えています。</p>
<p>621「自律的な行財政運営」について 今回追加された目標指数について、課題としてもあります若い世代の定住意向を高めるために、より細分化した指標(世代による割合)なども含めることもよいのではと思いましたが。それに伴いプロモーションの見せ方、手法にも影響してくるかと考えております。 担当課で既に把握されているかもしれませんが、「地方への人の流れの創出」に向けた効果的移住定住推進施策事例集 https://www.soumu.go.jp/main_content/000742996.pdf</p>	<p>ご提供いただいた事例を参考に、寒川町のブランディングを踏まえた取組やプロモーションを展開してまいります。</p>

【その他について】

ご意見	町回答
他の指標追加は取り組み成果を明確にしようという意気込みが感じられ、よろしいかと思えます	今後も必要な指標は追加してまいります。
①総合計画の「事務事業評価」は年度ごとに「事中評価」と「事後評価」があり、その結果が事業実施にフィードバックされると理解していますが、R3年度の「事中評価」を本来なら、今回の審議会で審議するのが望ましいと思ったのですが、「事中評価」結果を見せて頂くことはできないのでしょうか。書面でも構わないので。	お見込みのとおり、事中評価と事後評価の結果を踏まえて事務事業の改善を図ります。事中評価については、その時点での現状を踏まえ、スピード感をもって事業の改善をすることを目的としているため、総合計画審議会での審議は予定しておりません。しかしながら、実施計画を修正する根拠となりますので、来年度以降はお示してまいります。
①を踏まえて、R3年度の第1次実施計画の修正はないという理解でよろしいでしょうか？	事中評価の結果を踏まえて、R3年度の内容を変更したものはありません。
年2回のPDCAサイクルが回ると認識していますが、R3年度はそれが見えません。PDCAサイクルは問題なく回っているか問題があれば、それも含めて教えて下さい。	今年度(令和3年度)から年2回の事中評価を開始しました。年度中に施策や事務事業の進捗状況を確認することができ、町長や副町長のヒアリングにおいて事業の修正などを行うことができました。また、年度終了後に事後評価を実施し、施策及び事務事業の進行管理を行い、まちの将来像などの実現を図ります。
実施計画では、各項目の推進責任部署を明確にしていけないと単なる数字の遊びになってしまうと思います。	今回、修正したページには記載されておませんが、施策及び事務事業の責任部署(責任者)を明確にして進行管理しております。
改正された箇所については特に問題はなく、より具体的な数字が記載された事で現状が(数が少なすぎるなどについても)明らかになって良いと思いました。	今後も必要な指標は追加してまいります。
全体に「安心、安全、心穏やか、健康」など、町が今ある姿を維持していく方向(防災、環境、子育て)などについての施策に視点が向いていて、後半の「賑わい作り、観光」などのテーマに対しては具体的に策がないというのが現状かなと感じました。	今年度(令和3年度)の進捗状況については、8月頃に事後評価の結果をご審議いただく予定です。その結果を踏まえて、委員の皆さまからご意見やご提案をいただくと幸いです。
細かい部分について修正箇所は「グラフが小さくて見づらい」以外にはありません。	次回以降改善いたします。

議題2 令和4年度の寒川町総合計画審議会の進め方について

ご意見	町回答
<p>①開催時期、回数は基本的には賛成です。年2回8月と2月は最低限必要なタイミング、回数と思います。その審議で追加開催をするかどうか、審議次第で臨時の追加開催を検討するのが良いと思います。</p>	<p>臨時の審議会については、会長とご相談させていただき、必要に応じて開催してまいります。</p>
<p>②前年度の「事務事業評価」結果をぜひ8月の第1回審議会でお示しいただき、併せてR4年度の追加対策を議論したい</p>	<p>そのように実施する予定です。</p>
<p>③同様に第3回で第1次計画の修正を審議する場合、ぜひ「事中評価」結果を示していただきたい。その上での修正審議と理解しています</p>	<p>ご意見いただいたとおり、修正をご確認いただく際に「事中評価」の結果も踏まえていただいたほうがよろしいかと思えます。来年度(令和4年度)は、実施計画の修正時に「事中評価」の結果をお示しいたします。</p>
<p>④委員同士の議論ですが、上記①の審議結果を受けての議論と思えます。①の結果で決めてよいのではないのでしょうか</p>	<p>そのように実施する予定です。</p>
<p>こちら委員同士及び町民も交えた意見交換の機会創出にご検討いただき有難うございます。 進め方については賛成であるなか、実際の議論の場は第2回目にての実施想定かと思われまます。 1回の実施にて集中的に議論を行うべきなのか、分科会のような形で一定期間において複数回行う方が議論の質(発言しやすい雰囲気作りも含め)を高めることができるのではないかと考えておりますので、他の委員の形の意見も踏まえご検討いただけますと幸いです。</p>	<p>分科会のような形にするかは、議論のテーマにもよると思えますので、令和4年第1回寒川町総合計画審議会での議論のテーマや議論の方法については、ご審議いただければと思います。</p>